

冬まきトンネル栽培による5月どり寒玉系キャベツの 収穫期の前進化

加工業務用適性の高い寒玉系キャベツの4～5月どりは、抽だいや不結球等によって生産が安定しません。とくに4月下旬から5月上旬にかけては生産が極めて難しいため、この時期に安定して収穫可能な新作型を開発しました。(図1)。

寒玉系の5月どり用品種(‘さつき王’など)を用い、12月上旬～2月上旬播種、1月下旬～3月中旬に定植し、定植直後からトンネル栽培すると、トンネル被覆しない露地栽培に比べて収穫期が2～3週間前進します(図1～3)。従って、両栽培方法を組み合わせると、4月下旬から5月末まで連続して収穫することができるようになります。ただし、この時期は生長が早く、裂球しやすいため収穫遅れにならないよう注意が必要です(図1、3)。

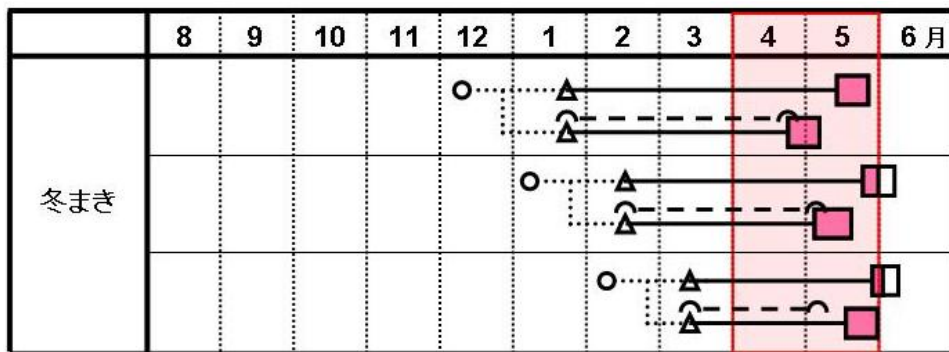


図1 冬まき栽培による寒玉系キャベツの基本作型
○：播種、△：定植、---：トンネル被覆、□：収穫期



図2 トンネル栽培の様子

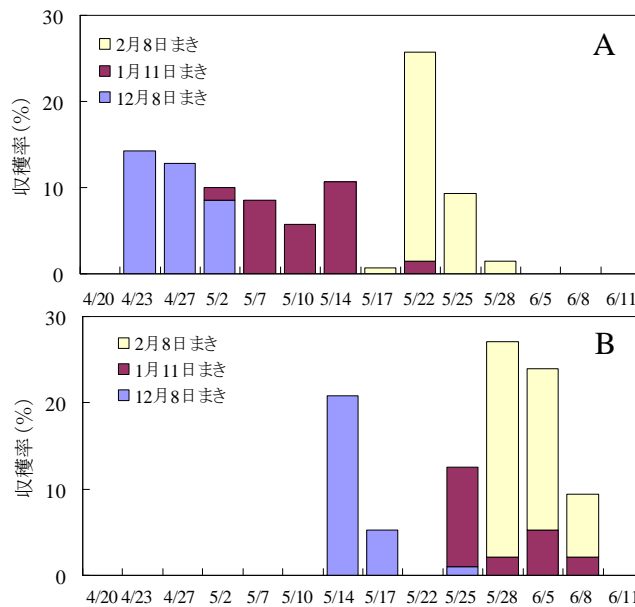


図3 冬まきで寒玉系キャベツ品種‘さつき王’をトンネル(A)及び露地(B)栽培したときの播種日別の収穫率の時期別変化
播種日：2006/12/8、2007/1/11、2/8、定植日：2007/1/24、2/16、3/15、トンネル資材：ユーラックカンキ2号、育苗：72穴セルトレイを用いて最低夜温13℃で管理。